

氏名	大西信彦
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第5479号
学位授与の日付	平成29年3月24日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	CD10 down expression in follicular lymphoma correlates with gastrointestinal lesion involving the stomach and large intestine (消化管濾胞性リンパ腫のCD10発現低下は胃や大腸への浸潤と関連する)
論文審査委員	教授 松川昭博 教授 藤原俊義 准教授 大内田 守

### 学位論文内容の要旨

濾胞性リンパ腫(FL)は最も頻度の高い、低悪性度の成熟B細胞性リンパ腫である。FLを診断するうえで、免疫染色にてCD10とBCL2の共発現を確認することは重要である。FLの消化管病変においては時折、部分的なCD10の発現低下が起こることが経験的に分かっていたものの、その詳細な頻度や意義は明らかになっていなかった。今回FLの消化管病変を、CD10陽性群と発現低下群に分け、臨床病理学的検討や分子生物学的検討を行うことでこれらについて検討した。消化管病変では172例中35例で、CD10が発現低下しており、節性と比べて消化管で多く見られた。さらにCD10発現低下群は小腸外の消化管に浸潤する傾向があった。また胃に病変のある12例中5例でlymphoepithelial lesion (LEL)を認めた。これらはMALTリンパ腫との類似性を示唆する所見である。本研究によって得られた知見は消化管FLの疾患の特徴を明らかにするうえでの一助となると考える。

### 論文審査結果の要旨

濾胞性リンパ腫(FL)は、低悪性度の成熟B細胞性リンパ腫であり、通常、胚中心マーカーであるCD10とBCL2の共発現がみられる。しかし、節性FLではCD10陰性例の報告があり、その場合は有意にgradeが高くaggressiveな病態をとることが報告されている。申請者は、FLの消化管病変172例を対象に、CD10陽性群と発現低下群(50%以下)に分け、臨床病理学的検討や分子生物学的検討を行った。その結果、172例中35例でCD10の発現が低下しており、CD10発現低下群では小腸外の消化管に浸潤する傾向を見いだした。また胃病変12例中5例でlymphoepithelial lesion(LEL)を認め、MALTリンパ腫との類似性を示唆する所見を明らかにした。審査員よりCD10発現の病態形成における意義についての解析が望まれるとの指摘があったが、消化管FLの疾患特徴を明らかにした点は評価できる。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。